

## 進捗状況の概要

### ①事業実施体制の整備

平成 27 年 11 月 12 日に「第 1 回ひょうご神戸プラットフォーム協議会」を開催し、事業方針や年度計画、予算に関する協議を行った。また、申請段階から園田学園女子大学を加えた 10 の機関で、「ひょうご神戸『地（知）の拠点大学による地方創生推進事業』に関する協定書」を平成 28 年 2 月 24 日付けで取り交わした。

また、正副の統括コーディネーターおよび、「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「イノベーション」の領域コーディネーターを採用し、月 2 回程度、コーディネーターミーティングを開催するなどして、教育プログラムの検討を開始した。

### ②教育プログラムの整備・開発

「自然と環境」領域では、先行して平成 28 年度から、「プロジェクト型（インターンシップ型）実践農学」を導入するため、学生受け入れ先機関等と調整を行った。本科目は、持続可能な農業農村の発展に関する現場での調査や、プロジェクトへ実際に参加し、農村地域の産業・環境・社会を理解する基礎的な技術や能力、および施策立案や調整能力を身に着ける授業である。平成 28 年度から、新たに、6 つの「プロジェクト型（インターンシップ型）」として実施することとなり、そのためのインターン受け入れ先との調整をはじめ、シラバスや学生周知向けパンフレットの作成などを行った。

また、「地域の元気づくり教育プログラム」での使用や、広く一般向けに事業の成果を活用できるよう、教材（テキスト）の作成に向けて検討を行った。領域ごとに 1 冊、初学者向けのテキストを刊行することとし、教育プログラム担当教員とともに開発を開始した。特に、「歴史と文化」領域では、テキストの構成案の策定し、章立て、執筆分担や編集方針などについて先行して取り組んだ。これを雛型として、他領域でも構成案の策定や執筆者の選定に向けての作業を開始した。このほか新規開講予定の全学共通授業科目「地域社会形成基礎論」「ひょうご神戸学」の構成についての検討を行った。

### ③地元就職支援・雇用創出

地元への就職支援を行うため、地元企業に焦点をあてた冊子を発行し、本学キャリアセンター主催の合同企業就職説明会を開催した。また、地元企業を深く知るため、神戸新聞社が主催する「地域企業と大学生のマッチングラボラトリー（Mラボ）」事業を、本学経営学研究科教員が実行委員長となって進めた。農山村地域での起業支援のため、「神戸大学・篠山イノベーションラボ」開設に向けて、準備を行った。

### ④地域のシーズやニーズの把握・情報発信

平成 27 年 11 月 28 日に神戸大学・神戸新聞社の共催で「つなぐ いかす 地域力～みんなでつながる 子育て～」と題したキックオフシンポジウムを神戸新聞社松方ホールで開催した。また、平成 28 年 1 月 28 日に神戸大学瀧川記念学術交流会館で「ひょうご神戸プラットフォームCOC+第 1 回シンポジウム」を開催した。このほか各領域では、平成 28 年 1 月 23 日に「篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」（「自然と環境」領域）、平成 28 年 1 月 30 日に「兵庫県立大学産学公連携シンポジウム」（「イノベーション」領域）、平成 28 年 1 月 31 日に「歴史文化をめぐる地域連携協議会 地域で歴史を学びあうことのおもしろさ」（「歴史と文化」領域）、平成 28 年 2 月 6 日に、神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター活動報告会（「子育て高齢化対策」領域）、平成 28 年 3 月 8 日に「震災復興学シンポジウム」（「安心安全な地域社会」領域）をそれぞれ開催した。このことにより、県内の地域課題や大学のシーズを共有することができ、今後、地域一体となって教育プログラムを開発するための基盤を整えることができた。また、事業の取組内容を広く情報発信をすることが可能となった。

### ⑤調査

信州大学への調査や、三重大学・高知大学など、他大学のCOC/COC+関連、また大学の地域連携関連の企画に参加するなど、コーディネーターを中心に取組事例の調査を行った。

（COC+大学名：神戸大学、事業名：地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム）